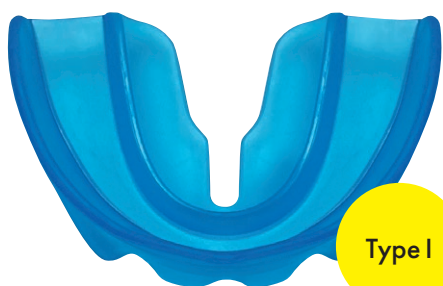


New!



プレオルソ イニシャル

Preortho initial



発売からご好評いただいているプレオルソ イニシャルに、
先生方の声を受けて反対咬合用〈タイプⅢ〉が新登場しました。
より早期からのアプローチや幅広い患者さんに対応いただける新たな選択肢としてお役立てください。

Point 1 はじめてでも安心

乳歯列期や嘔吐反射がある患児でも使いやすい、小型サイズ

Point 2 つけ心地やさしく

素材を薄く設計し、装着時の違和感を最小限に

Point 3 続けやすい

導入期のトレーニング用として使うことで、継続率をアップ

Inventor

プレオルソ発明者

大塚 淳 先生 (大塚矯正歯科クリニック 院長)

- 東京歯科大学卒業
- 医学博士・歯科博士
- 東京歯科大学大学院 修了
- 東京歯科大学 非常勤講師



■お問い合わせ先

Forest-one 株式会社フォレスト・ワン

〒274-0825 千葉県船橋市前原西2丁目19-1 津田沼ビート4階
TEL/047-474-8105 FAX/047-474-8106 MAIL/info@forest-one.co.jp



フォレスト・ワン公式LINE

ご注文・お問い合わせはLINEより
お願いいたします。



■ タイプⅠ イニシャル 適応症:上顎前突、過蓋咬合、叢生

近年では乳歯列期から過蓋咬合の症例が非常に多いことは広く知られています。また、患者の主訴として「歯ぎしりやブラキシズム」が見受けられ、早期からの治療需要が高まっています。従来のタイプⅠ同様、タングアッププレートが付与されており、指導の難しい舌の正しい位置を自然に誘導できる構造となっているため、幼児期からの口腔育成のスタートとしても活用しやすくなっています。



■ 乳歯列期の過蓋咬合の弊害

過蓋咬合は基本的に咬合形態がチョップタイプなので、咬み砕くことができず食物を丸呑みする傾向があるとされています^{※1}。さらに、多くの乳歯列期の過蓋咬合は混合歯列期に移行した後、下顎が後方へ押され過蓋咬合を伴う上顎前突の傾向が強くなり、気道閉塞などによるいびきや睡眠時無呼吸への併発等が起きやすくなります^{※2}。また、歯ぎしりなどブラキシズムが多く乳臼歯部の咬耗が強く見受けられます。 ※1 小児歯科専門医 岡崎好秀先生より ※2 千葉大学 磯野史朗先生より

■ タイプⅠ Sとイニシャルのサイズ比較(原寸サイズ)



■ タイプⅢ イニシャル 適応症:反対咬合

反対咬合は他の不正咬合と比較して、特に早期介入が求められる症例です。プレオルソタイプⅢは早期の被蓋改善が期待でき、その変化が目に見えることが評価されています。その臨床的有用性はそのままに、乳歯列期から早期介入しやすく設計されています。



■ 乳歯列期の反対咬合の弊害

反対咬合は上顎の前方成長が抑制されるとともに下顎の成長を促進する傾向があります。乳歯列期にこの状態を放置すると顎骨の成長発育に悪影響を及ぼし、混合歯列期から成長期にかけて骨格性の反対咬合へ移行するリスクが高まります。また、機能面では食事の際に前歯で食物をうまく噛み切れず丸飲みをする傾向や発音障害が見られます。

■ タイプⅢ Sとイニシャルのサイズ比較(原寸サイズ)

